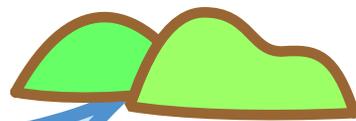


清水東地区

各地区^(※)のアーカイブ



※ この冊子における「各地区」とは自治会単位の事です。



上天下町	P 1
下天下町	P 3
小羽町	P 5
三留町	P 7
清水杉谷町	P 9
田尻柝谷町	P 11
竹生町	P 13
清水町	P 15
和田町	P 17
ホーフタウン田尻	P 19

この冊子は、平成30年5月から平成31年2月にかけて清水東公民館ホームページに掲載してきました、各地区のおもしろい情報などをとりまとめたものです。

各地区を普段とは違う観点で読んでいただければ幸いです。

※ 冊子化用にレイアウトなどを一部再編集しているため、ホームページに掲載されているものと一部異なります。



清水東地区



A SPECIAL EDITION
by Teamぶらひがし

各地区のおもしろい情報をご紹介します。



Teamぶらひがしとは、清水東公民館の広報部を中心とした有志の集まりです。
日々、地区内のおもしろいネタを探しつつぶらついていきます。

上天下町

ホタルを見よう

「上天下町のこぼだん」

とんびはこんなふうに見ています。(※1)

昨年行われた「清水東のまちづくりワークショップ」で上天下町のとある谷は、ホタル、シジミ、カワセミ(※2)などがたくさん生息し自然豊かな、との情報がありました。地元ではその谷を「こぼだん(※3)」と呼んでいます。

ホタルを楽しめる季節となりました。道路から静かに観賞されては如何でしょうか。

〈お約束〉

- ※お子様は大人と一緒にだけ見ましょう。
- ※谷の中の田や道路には入らないようにしましょう。



← ゴルフ場

上天下町 の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては動画が再生できない場合があります。
※通信速度などの都合で再生が不安定な場合は動画データをダウンロードしてお楽しみください。



- (※1) 大森町と上天下町境より北北東に向かって小型無人機で撮影しています。
- (※2) 水辺に生息する鮮やかな水色の体と長いくちばしが特徴の小鳥です。
- (※3) 小字名は「口小保谷」「奥小保谷」です。便宜上「こぼだん」と呼んでいるのではないのでしょうか。

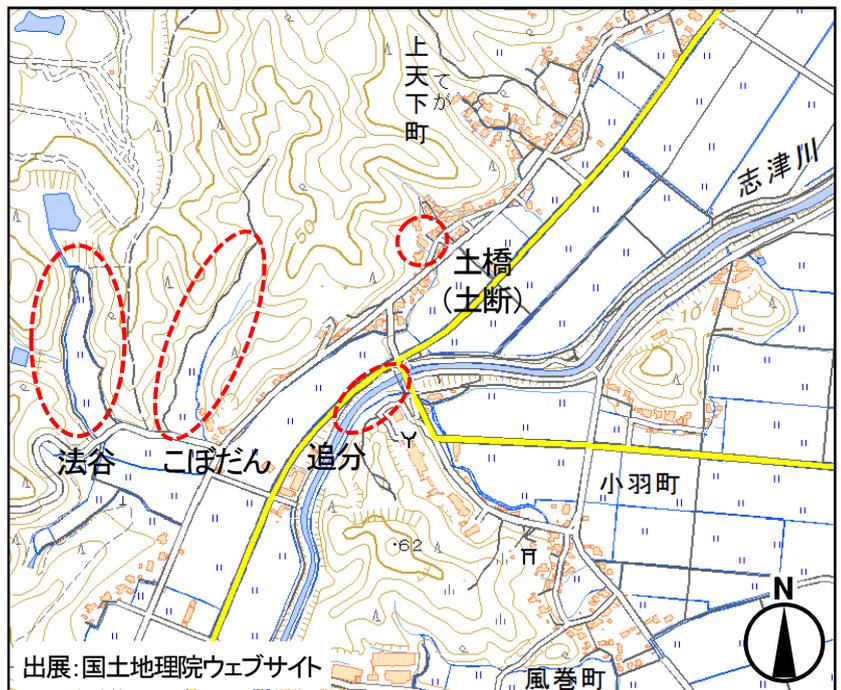
上天下町のおいたち

大むかしは、西谷村といって、大森出村(大森町)境から、北へ入る法谷(※1)の西北にあったといわれ、それが、千年以上も前、南向きで谷の奥から清水がよく出ている、南向きの「谷向い垣内」(※2)に移り住んで上天下村が出来たといえます。

その後、小羽(小羽町)へ行く追分(※3)の手前のせまい谷に「土断(どばし)」(※4)という出村が出来、今の上天下のもとが出来ました。大雨の時は、志津川の水が田んぼに流れこんで屋敷も田んぼも水浸しになる事がたびたびあったので、家は谷の奥の高い所へ建てて住んでいました。

記事引用:清水町のむかしばなし

- (※1) 「法谷」は主に大森町地係です。
- (※2) 「谷向い垣内」のはっきりとした場所はよくわかりません。
- (※3) 小字名で「追分」があります。今の小羽橋付近です。
- (※4) 小字名で「土橋」があります。「土断(どばし)」とはこの辺りと思われます。



出展:国土地理院ウェブサイト

「こぼだん」にまつわるむかしばなし

乙女谷（おとめだん）とテング

むかしむかし、上天下の百姓の家の、おっつあとおっかあが、法谷（ほうたん。小字名）の山へ「木の葉」を拾いに出かけたんにやっつての。ほのとき、家の中にいた五つの女の子がおっかあのと追いをし、

「おっかあ、おっかあ、いってもたらいやーん、ててってー、おっかあー。」と、泣き泣きついてくるんにやっつての。ほうやっつてついて来て、とうとう山の四つ辻まで来てしもたんにやと。ほこからは山がけわしなつて、ガサ原になるんでなおこと、子どもはついてこれんのか。

「早よう帰らなあかんのやっつて。おとろしいワワメ（おばけ）がててつてしまふんやぞ。おまえはえれえ子やぞー、早よう帰れやナア。」と、何べんも言いきかせたんにやっつて。

しばらくすると泣きやんだんで、おっつあとおっかあは帰つたもんやと、安心して、四つ辻から小法谷（こぼだん。小字名）の方の山へたくもんしいに行つたんや。おいていかれた女の子は、泣きじゃくつて声がかすれて、いけーい声かでんようになつてもたんやっつての。

おっつあとおっかあは、小法谷でこまざらえ（竹のクマ手）で、スン葉やらマツ葉をぎょうさんさらえて、たくもんの束をようけこつせたんにやっつて。

晩げしまになつたんで、たくもんをかづいてヒヨッコラ、ヒヨッコラ家へ帰つてきたんやと。ほいたら、とうに帰つてゐるはずの女の子がえんのか。

「こりゃ大ごつちや、うちの子がえんのか、どうしようこつしよう。」と、青うなつて山へさがしに出かけたんにやと。だんだんあたりは暗うなるし、女の子はみつからんし、おっつあとおっかあはものごうなつてしもうたんや。

ほれで、村のもんも出てきて、「ほれは、きつとオテングさまにててかれたんじや」というて、太鼓をたたきながら、

「乙女をかやせやー。乙女をかやせやー。」と、あつちの山やらこつちの山を一晩じゅうさがいて歩いたが、やっぱし見つからなんだんやっつて。

ほいたら三日目の朝ま、小法谷近くのスギの切り株んとこに、女の子がチョコんとすわつてゐるのを、村のもんが見つけたんやと。

「ほりゃよかつた、よかつた。オテングさんにててかれて、おとろしかつたやろな。ほやけど、おめえ二日も三日も、何を食べていたんやいの。」

と、聞いたら、女の子がだまつてほところから、ウサギのくそをポロポロ出いて見せたんやっつてのう。

それから、家へぶしかえて、スイロ（お風呂）に入れてうつくそう洗うてやり、着物もスカーンと着かえさせてから、ごはんをこつぽし食べさせてねさしたんやっつて。

その晩げのことや。誰やら外でユサユサ家をいさぶるもんがいるんやっつて。おっかあは、オテングさまがまた女の子を連れに來たんかもしれんと、夜さりじゅうきつーう抱いて、ちぢこまつてねてたんやっつて。

ほんなことがあつてからは、女の子がすわつていた谷を「乙女谷」というようになつたんにやと。

※ 昭和 61 年 8 月、旧清水町が発行した「清水町のむかしばなし」の中に収録されている、「民話」をとりまとめました。

※ 概ね原本のとおりのため、難解な方言もあるかもしれません。



下天下町

下天下町の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。



下天下の端にあった橋のおはなし

古い空中写真で
見つけた



(※1) 昭和23年5月21日撮影

65
年
後

答え

最初の六才橋です。
昭和31年頃までは
ここにありました。

江戸時代より、もともと六才橋はここにありました。
この六才橋は、下天下町から東へ通じる重要な
橋で、石造りだったようです。
今の六才橋は、昭和56年、時代とともに重要な
交通ルートが変わったことにより、古来の場所か
ら上流約400mの所に架けられました。

(※1)(※2)
出展: 国土地理院ウェブサイト。
一部、写真を切り出しています。

(※2) 平成25年8月14日撮影



下天下町のおいたち

下天下町の地名の由来について、慶長絵図(けいちょうえず)に三留郷手賀村(みとめごうてがむら)と書いてありますが、貞享二年(1682年)の越前国指南に、はじめて下天下村の名が書いてあります。
越知山大谷寺縁起に、「古記に曰く蚕種(さんしゅ)の天より下りたる所を天賀(ていが)という」と書いてあり、天蛾(てんが)が天賀(てが)、天下(てが)と通じ、昔蚕種の産地であったので、天賀といい、後に天下と書くようになったのではないのでしょうか。
現福井市の殿下(てんが 岡保地区)も、天賀が訛って殿下と言うようになり、昔は蚕種の産地でありました。

記事引用: 清水町のむかしばなし

六才橋の歴史

下天下町から三留町へ通じる橋を「六才橋」としていました。

元の橋は、現在の宮永製作所の南の方八十メートルの所に、架かっていて、竹生町、片粕町、三留町、清水杉谷町へ通じる重要な橋でした。今から約二百五十年程前(2018年現在)の明和六年(1769年)の橋架け替え仕様書によると、長さ五間半、巾五尺の石橋で、橋脚も高く木の欄干がついていました。

以前は、手摺がなく六才になる子どもがこの橋から落ちて死んだので「六才橋」と言うようになったとの言い伝えがあります。

大正四年に、竹生町—久喜津町—狐橋の道路が県費支弁道に昇格し、念願の久喜津橋が架けられ、これまでの猿和田(和田町)—清水尻(清水町)の堅野橋は使われなくなり、下天下町—竹生町間に「志津川橋」が架けられ、この時「六才橋」は、三留町の宮の越(今の三和橋付近)に移され、下天下町—三留町間の近道として粗末な橋が架けられました。

そして昭和五十六年には「みせや堤」(今の六才橋付近)に鉄筋の立派な永久橋が架けられ「六才橋」と名付けられました。

なお昭和二年頃から始められた、志津川の大改修事業により、屈曲した志津川の両岸に立派な堤防がつくれ、元の六才橋も架け替えられ三和橋と名付けられました。

記事の引用: 清水町のむかしばなし

六才橋の危機 (ひとつ前の) (昭和34年)



◇ 危機にひんした志津川六才橋附近。

現在の三和橋の場所に架かっていた六才橋については、昭和34年8月12日より降りはじめた台風6・7号による豪雨により、志津川が増水した時の写真が同年9月号の清水町広報に掲載されています。

写真は、志津川右岸の三留町気比神社近くより撮影されたと思われ、タイトルは「危機にひんした志津川六才橋附近」です。橋の中央付近の橋脚は濁流でほとんど見えなくなっている様子がわかります。又、後ろには、下天下町の山なみが確認できます。

写真の引用: 旧清水町広報紙 昭和34年9月号

今の六才橋と下天下町



今の六才橋付近より下天下町方面に向けて小型無人機で撮影しています。

六才橋の完成 (今の) (昭和56年)



六才橋が完成

昭和五十三年から工事が進められていた六才橋が完成し、今年度中(※)には取付道路もでき、通行できるようになります。 ※昭和56年度

いままでの六才橋は、昭和三十一年に架けられたもので木橋で老朽化がはげしく、自動車の通行、通学児童の安全を守るため、新設されることになったものです。

新しい六才橋は、旧六才橋の上流二百メートルの所に架けられ、プレビーム合成げたを使用した近代的なもので、長さ四十九メートル、幅は一・五メートルの歩道を入れて八・二五メートルあります。

総工費は一億七千七百九十万円で、内国庫補助金が一億一千八百六十万円となっています。

記事と写真の引用: 旧清水町広報紙 昭和56年6月号

小羽町

※1 古墳がたくさん！ 小羽町

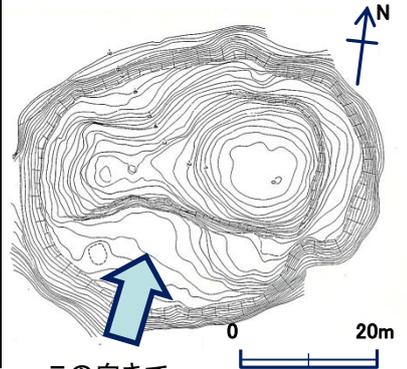
※1 一般的に使われる「古墳」と表記しました。古代のお墓は、「墳丘墓」と「古墳」に分類されます。「墳丘墓」とは、弥生時代までのお墓の呼び名です。「古墳」とは、古墳時代に造られたお墓の呼び名です。



県指定史跡 お城山古墳

小羽町 の紹介ショート動画はこちらから。

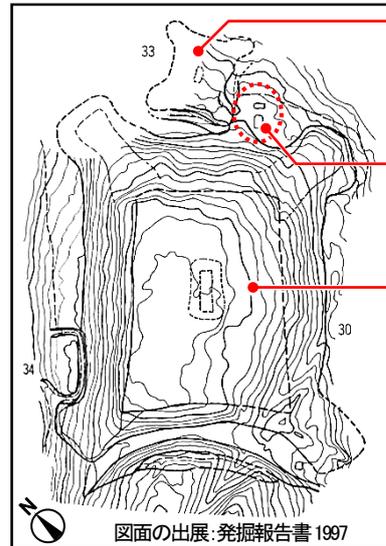
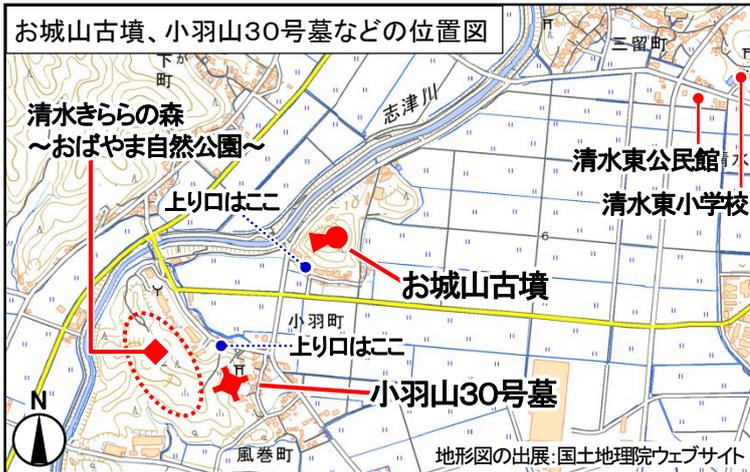
※動画形式はMP4です。再生する端末によっては動画が再生できない場合があります。※通信速度などの都合で再生が不安定な場合は動画データをダウンロードしてお楽しみください。



この向きで撮影しています。右側の小高い所が「前方後円墳」の後円墳部分です。

お城山古墳は、向山と呼ばれる丘陵の頂上に造られた前方後円墳で、全長44mあります。発掘されていないので造られた年代ははっきりしませんが、4世紀の末頃に造られたと考えられ、清水地域では一番大きいものです。

※参考の記事引用：旧清水町広報 1988.9号



② 33号墓
幼児埋葬の墳丘墓で、極めて良質なヒスイ製の勾玉1点が副葬されていました。

① 幼児埋葬の土壇墓
70cmを測る組合せの箱型木棺が安置されていました。

小羽山30号墓
埋葬は墳丘の完成前に行われ、長さ5.3mの墓壇(ぼこう)に長側板の長さ3.7mの組合せの箱型木棺が安置され、副葬品は碧玉(へきぎょく)製管玉103点・ガラス管玉10点・ガラス勾玉(まがけたま)1点・鉄製短剣(たんけん)1点が出土しました。

※参考の記事引用：発掘報告書1997 現地説明板

「小羽山30号墓」は、小羽山で30番目に発見されたという意味です。お墓の形は、出っ張りのある長方形で四隅突出型墳丘墓(よすみとしゅつがたふんきゅうぼ)と呼ばれています。

この特殊なタイプの墳墓は、山陰地方の出雲の王の墓の形であって、その影響を受けています。

「小羽山30号墓」は規模が大きく副葬品が豊富なので弥生時代の「王墓」であると考えられています。

なお、30号墓のテラス上には幼児埋葬の土壇墓(どこうぼ:地面に穴を掘って埋葬する墓。※①右上の図面参照)が2基営まれおり、また、すぐ近くに幼児埋葬の33号墓(※②)が発見されています。

※参考の記事引用：旧清水町広報 1997.10号 発掘報告書1997

お城山古墳はここ



市指定史跡 小羽山30号墓

小羽山30号墓はここ

四角いお墓の形がわかりますでしょうか。

東に向かって小型無人機で撮影しています。

小羽町の私たち

清水総合支所前から、弥生時代の土器が出土している点、また通称「後山(うしろやま) 又はお城山」に前方後円墳が造られていることなど、これらのことを合わせ考えると、かなり権威をもった首長一族が住んでいたと考えられ、小羽町には早くから人が住みついていた事がわかります。

お城山と今井兼平（いまいかねひら）

むかし、小羽山の上に今井兼平という武士が城をつくったんじゃって。それで今でも「お城山」というんじが、この今井兼平という武士について、こんな話が伝わっているそうじゃ。

今から八百年も昔の話じゃが、源氏（げんじ）と平氏（へいじ）とが天下をとろうと戦をしていた頃、源氏方の大将に木曾義仲（きそよしなか）という偉い侍がいて、その家来に四天王という四人の強い武士がいたと言う話じゃ。

その四人の中に今井兼平という一番強い武士がいた。義仲がまだ小さい赤んぼうの時、兼平の母が、義仲といっしょに乳を飲ませて育てたので「乳兄弟（ちきょうだい）」ちゅうことじゃ。

その頃天下をとっていた平家を滅ぼそうとして、木曾義仲が京都へ攻めのぼる時の話じゃ。

今井兼平は小羽山に城をつくって、山の下に館をたてて住んでいたんじが、平家方の平維盛（これもり）という大将が十万人というぎょうさんな兵隊で、加賀・越前で木曾義仲と戦ったんじが。兼平もこの戦に出て手柄をたて、平家方は負けてみんな散り散りになってしもうて、あっちゃこっちゃの山の奥へ逃げこんだんじが。

近くの本折の城山にいた斎藤三郎実員（さねかず）という平家方の武士も、追っかけられて清水畑町の山奥へ逃げこんだそうじゃ。

木曾義仲は、平家の軍を追っばらって、とうとう京都へ入って將軍様になったんじが。ほやけど、しばらくで源義経（みなもとのよしつね）という強い大将に攻めたてられて、とうとう粟津（あわす：滋賀県）ちゅう所で戦死してもたんやうて。この時、いっしょに戦っていた兼平は、もうこれまでと覚悟をきめ、「日本一の武士の死に方を見せてやるぞ」というて、刀の先を口にくわえて、逆さまになって馬からとび落ちて死んだちゅう話じゃ。

話がもとへもどるが、今井兼平は小羽に三年ほといたらしい。その時福井の大町（おおまち）という所の助五郎の娘をもらって、小羽に住まわせていたそうで、男の子が生まれたんで、大町へ帰って大事に育てたんじが。

その子が大きくなって助四郎という名をつけ、その助四郎の子が如道上人（によどうしょうにん）という偉いお坊さんの弟子になって、恵門坊覚竜（けいもんぼうかくりゅう）という名前をいただいてお坊さんになったそうじゃ。

また、その子も大変偉くなって、今井覚右工門尉金真（いまいかくうえもんのじょうかねまさ）と名を改め、お寺を建てたのが、福井のみのり町にある教覚寺（きょうかくじ：現福井市みのり2丁目）のはじまりじゃって。

今井兼平は小羽へ、木曾義仲の守本尊（まもりほんぞん）八幡様のお木像（もくぞう）をお祭りして、義仲のご無事を祈ったとのことで、そのお木像の裏に「朝日將軍義仲守本尊」と書いてあるちゅう話じゃ。

それから大分あとになってから、小羽のもんが小羽山へお宮さんを建て、今井兼平を神様に祭ったのが、今井神社のはじまりじゃって。ほれから明治時代のおわり頃、山の上は参るのにあんまり便利が悪いんで、下の八幡様と一緒に祭りしたのが、今の今井神社のいわれじゃそうじゃ。

※ 昭和 61 年 8 月、旧清水町が発行した「清水町のむかしばなし」の中に収録されている、「民話」をとりまとめました。

※ 概ね原本のとおりのため、難解な方言もあるかもしれません。

記事の引用：清水町のむかしばなし

茶臼山権現（ちやうすやまごんげん）

東に向って小型無人機で撮影しています。



小羽町のがらがら山(旧清水町役場西側の山)の山頂にある円墳上に、薬師如来(やくしによらい)がまつられてました。この山頂は、茶をひいて抹茶をつくる石臼の形をしていたので「茶臼山」と名付けられました。後世の土地開発により山頂は削られ薬師如来を祀るお堂は現在の地に移設されています。地元では、「高堂様」として親しまれています。

高堂様はここ

主な記事の引用：清水町のむかしばなし

三留町

三留にあったお城

三留城跡の辺りは、朝倉氏によって一乗谷西方の

出城として館を築き住んだ所です。城の規模は小さいですが、正寿寺の丘の頂に本丸・二の丸があり、正寿寺のある三留城に館があったと推定されています。

三留町 の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。



三留バス停付近より正寿寺に向けて小型無人機で撮影しています。

※ 史跡看板の内容です。

三留城は、一乗谷朝倉氏の初代敏景の六男景儀(かげのり)の子、孫六郎景冬が築いたと伝えられています。五位山の頂(※)に本丸址があり、正寿寺のある三留屋敷に館がありました。三留城は景冬の弟景総(かげふさ)、その子景久(かげひさ)へと受け継がれ、景久の子千代雅丸(ちよがまる)が正寿寺の住職となって父祖の菩提を弔ったそうです。

※ ここでの五位山の頂とは、正寿寺北側の丘の頂の事です。



※ 三留城跡は市指定の文化財です。

三留町のおいたち

三留町は三方村(旧清水町以前の村域)の前身的な意味をもつとともに、三留の郷のもとともなっているとされています。

三方という言葉の発祥は、日野川、志津川、天王川の三つの川を中心とした流れが、一か所に集って、渦のようになっていました。それで三つの渦の村から、「三渦」と呼び、「三方」と宛字で書くようになったと言われています。

また古文書の中には「三溜」という字が所どころにみられます。これは、三つの川が集まった所の意味をあらわすものと思われます。

時代が流れ、河川の改修が行われて、湿地が乾地となり、何時の間にか「みため」が「みとめ」と訛って「三留」と宛字を書くようになりました。

住みにくかった三留の地も、今まで山の上にいる人たちもだんだん下におり、また他の地方から移住してきた人もあり、現在の住みよい村になりました。

この三留に朝倉氏の一族が城をつくって、住んでいたのが、今住んでいる人びとの中には、朝倉一族や気比神社社司一族の血を引いているものも多いということだそうです。

記事引用:清水町のむかしばなし

お城があった名残

今でも、お城にちなんだ小字名が残っています。三留町41字の「後垣内」や61字の「御陳垣内」などがそうです。

「後垣内」は、もともと「御城垣内」でしたが、三留城の落城後、更地になってしまったので、近隣住民が木を植えたところ、後年巨木になりすぎ、その木の北側は日陰でうっそうとしてしまいました。その木の後ろ側ということで、後世、「御城垣内」から「後垣内」(※おしろ→うしろ)となまってしまい読みが変わってしまった、という面白い言い伝えがあります。

また、「御陳垣内」については、地元三留町では、(ごぜんがいち)とも読んでいるようです。(ごぜん)とは、奥方様の事であり、奥方様に関する何か(館?)があったのかもしれないとも言われています。なお、もともとは「陳」という字は「陣」でした。どうして漢字が変化したかについてははっきりしていませんが、「陳」「陣」いずれも陣立ての意味があり、先陳・本陳(せんじん・ほんじん)などと書かれた様々な史料も多いため、古くから「陳」「陣」が併用されていたのではないのでしょうか。

地形図の出展: 国土地理院ウェブサイト

41と61字の赤い破線はおおよその場所です。目安として考えてください。



「五位山」という名の由来



「五位山」という名の由来は、5カ所の山や丘の頂がある(あった)場所という地勢から名づけられた地名(小字名)だそうです。

三和橋付近より東に向かって小型無人機で撮影しています。

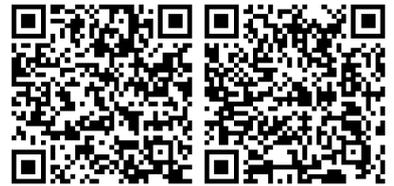
清水杉谷町

東の細道 in 清水杉谷町

お清水(しょうず)がいっぱい

清水杉谷町 の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。

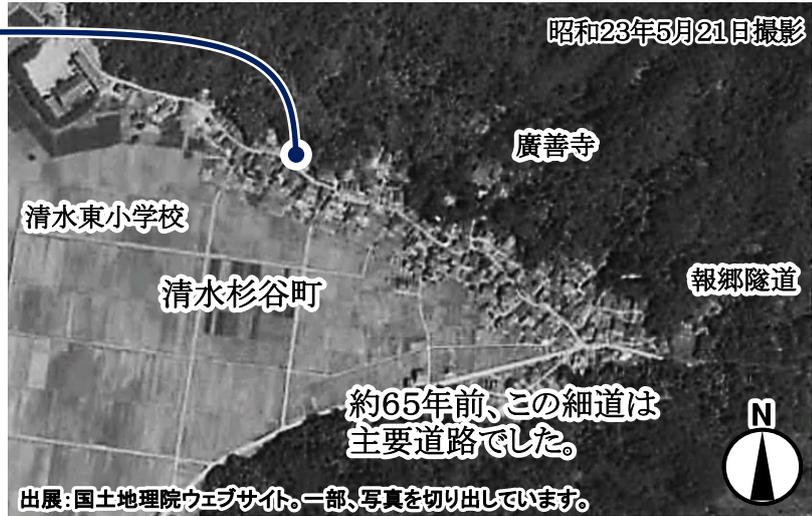


涼しさを求めて…

このあたりの様子



清水東小学校より清水杉谷町内に入った中ほどより東に向かって撮影しています。



昭和23年5月21日撮影

清水東小学校
清水杉谷町
約65年前、この細道は
主要道路でした。
廣善寺
報郷隧道

出展: 国土地理院ウェブサイト。一部、写真を切り出しています。



町内を貫くこの細道は、この地に人が住み始めてから変わらず在り続けました。辺りの家並みなどの風景はすっかり変わっているでしょうが、たずまいは今も昔も変わりません。

※三昧(さんまい)とは火葬場の事です。 ※清水杉谷町の清水(しょうず)は、細道沿いだけではなく町内あちらこちらにあるそうです。

清水杉谷町のおいたち

杉谷(清水杉谷町)は、もと東の田尻(田尻栃谷町)側の南、桂連山麓(けれんさんろく)に在ったと伝えられています。今も屋敷跡や社寺跡が残っています。大昔はこの辺一帯は湖沼のような低湿地で地名に「南沖」「南浦」「船積場」などの名が残っています。



この桂連山麓の元杉谷村は、後に現在地へ移り、氏神様は桂連山頂へ移し、もと神社境内跡には石塔を建て、観音像が安置してあり、「元文四未年九月吉日建之」と書かれてあります。昔はこの付近に大杉が生い茂っていたので、「杉谷」の地名がおこったとの言い伝えがあります。

また桂連山麓から片山(片山町)の新光寺(片山町の一部)にかけての地名に「門前」「釈迦畔(しゃかごろ)」「鐘搗島(かねつきしま)」「堂島」などの名が残っています。これは、広善寺が、「小谷山薬王寺広善院」と呼んでいた頃、この辺一帯に七堂伽藍(がらん)が、並んでいたその名残であると伝えられています。

記事引用: 清水町のむかしばなし



跡地の碑



跡地入口の鳥居

※ 赤い破線はおおよその場所です。目安として考えてください。
※ 「門前」の場所の記録が不明ですが、「鐘搗島」や「釈迦畔」の近くと思われます。

東の細道 in 清水杉谷町 その2 田尻坂と報郷隧道

杉谷(清水杉谷町)から福井へ通じる難所、田尻坂(杉岡惣兵エさん横の道)がありました。急な坂道で糸生(越前町の糸生地区)の大谷寺方面の木炭は、牛の背に振り分け三・四俵ずつ積んでガラガラと鈴の音を鳴らし、馬子唄を唄いながら毎日この田尻坂越えて福井へ通いました。また杉谷、三留(三留町)ではさかんに菅笠(すげがさ)が造られ、春先になると、大阪方面へ送り出されました。菅笠を積んだ荷車はこの坂がなかなか越せないで、夜明け前になると、家族が総出で、車の後をおし、先き引きを手伝ったと聞いています。

大正の始めごろは、西田中(越前町)・福井間の郡道は、島寺(島寺町)から片山(片山町)一桁谷(田尻桁谷町)一朝宮(朝宮町)を通して福井に通じていました。

地元の人達は杉谷を通るよう県当局に陳情を重ねていました。しかし杉谷と田尻(田尻桁谷町)の間には急な田尻坂があり、これを掘さくして隧道(ずいどう:トンネルのこと)を作らない限り郡道にすることはむずかしい。その為には多額の工事費の地元負担金を出さねばならず、村ではそのお金の目途がたたず、困っていました。

ところが、嘉永三年、杉谷の勝木勘右エ門の五男として生れた大久保権蔵さんが、後、東京に出て金物商を営み、努力を重ねてたくさんのお金を持つようになりました。この大久保権蔵さんが、たまたま福井へもどって来られた時、この話を聞いて故郷へ恩がえしはこの時と、当時のお金で一万円の寄付の申し出がありました。このお金を基に隧道工事は始まりました。

村人の願いがかなえられ、最後のハツパを仕掛けて、岩石が破られ、初めて二尺ばかりの穴があき、日の光とともに田尻の民家が見えた時は、区民一同おおよろこびで、代わる代わる穴のぞきに行ったとのことです。

やがて、村人の待望の隧道が、大正十五年五月完成し、大久保さんの郷土に報いる尊い意志をくんで「報郷隧道(ほうきょうずいどう)」と名づけられました。

六月二十七日、県知事、郡長の来賓を迎え、盛大な落成式が挙行されました。

昭和三年、入口の南側に記念碑を建て、その芳志

大久保さんの碑

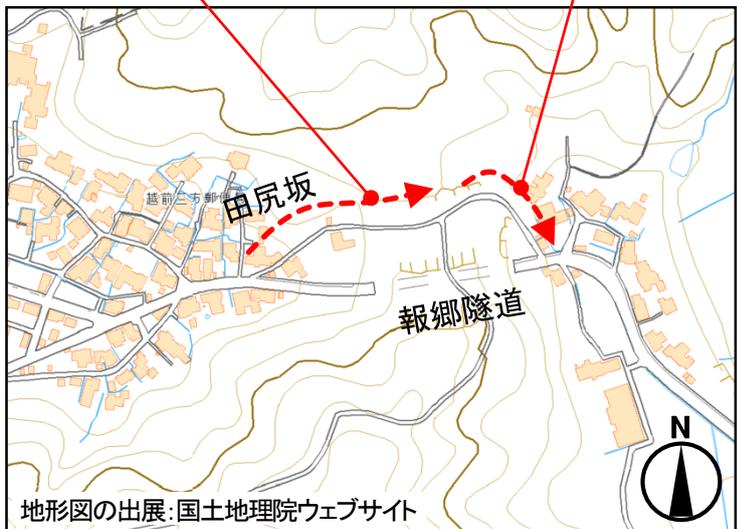


を後世に伝えています。

現在のトンネルは昭和四十三年、拡張工事が行なわれ、歩道、電灯もつけられて面目を一新しました。

記事引用:
清水町の
むかしばなし

報郷隧道の碑



地形図の出展: 国土地理院ウェブサイト



杉谷側からみた田尻坂への入口



杉谷側からみた報郷隧道と大久保権蔵さんを称える碑

碑文: 報郷隧道

「風氣之文野与産業之盛衰皆繫在交通運之便否古之賢人…」とあります。

どなたか要約していただけないでしょうか(苦笑)...

田尻 柝谷 町

田尻柝谷町のひみつ

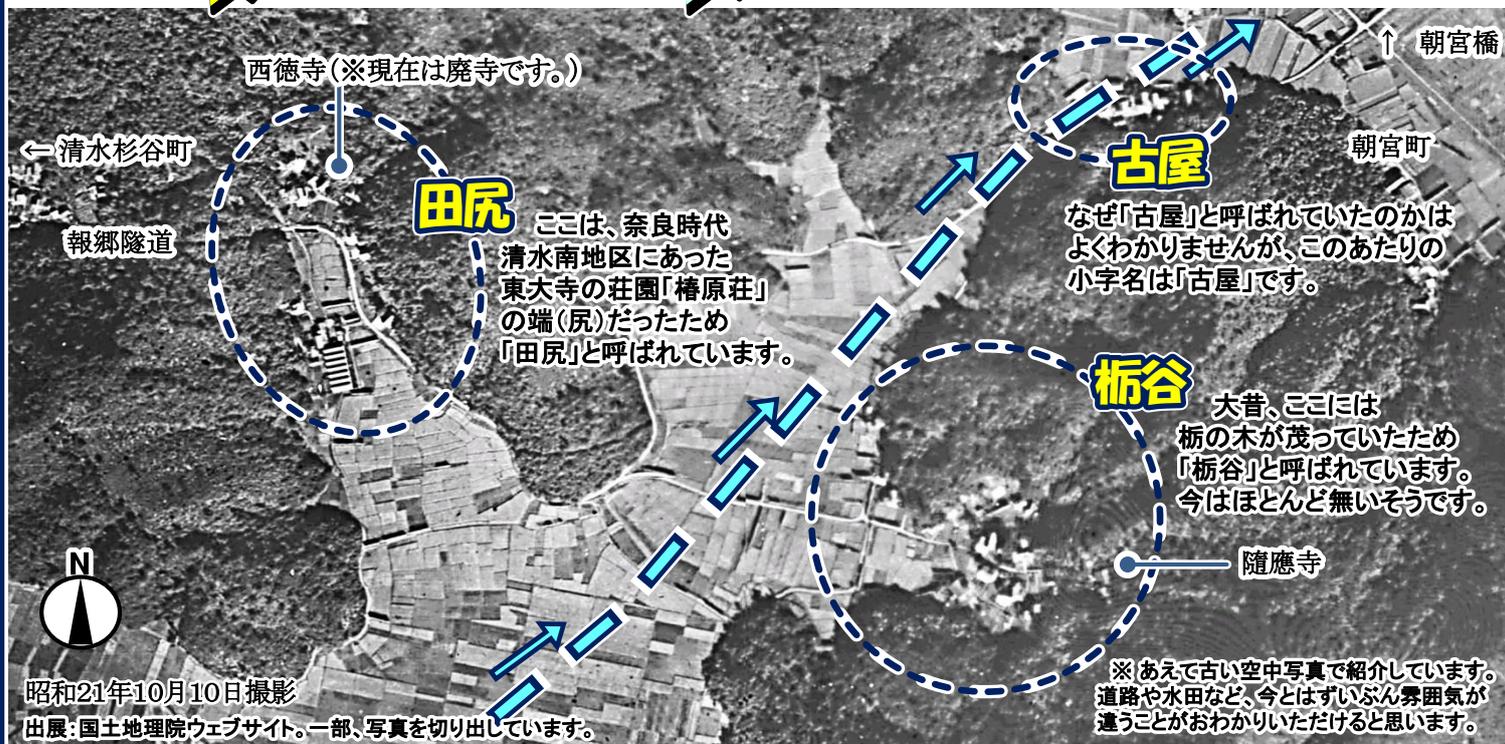
田尻柝谷町の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。



① 以前3つの村だった!

② 三留町や清水杉谷町などの田の排水を
田尻柝谷から日野川へ流した事があった!



- ① 田尻柝谷町は、田尻・柝谷・古屋の集落からなっていました。
- ② 慶応3年(1867年)の春に着工し翌年の春に完成したものの、理由は不明ですが、僅か1年足らずで埋め戻されました。
※排水路を表す写真中央の太い破線はイメージです。実際の場所などはよくわかりません。

① 田尻柝谷町のおいたち

田尻・柝谷・古屋の集落からなっていました。地名については、奈良時代東大寺の荘園「椿原の庄(つばきはらのしょう)」の田地が、片山新光寺(片山町の一部)の前に広がっていました。この椿原の庄が、朝宮(朝宮町)の谷間へ続いている田地の端が田尻であり、柝谷は柝の木が茂っていたところで、その名が生まれました。柝の実は古代人の食物として大切なもので、大昔はこの辺にも茂っていましたが、今ではほとんど絶えて、奥越の山間部にだけ残っています。柝(とち)と名のつく地名は、このように古代人の集落が、近くにあったことを物語っています。

近くの片粕山(グリーンハイツ4丁目付近)の中腹には、縄文中期頃(紀元前二・三千年)古代人が住んでいた縄文遺跡があり、すぐ近くの田尻柝谷(田尻柝谷町)の小高い丘陵の上(元ブドウ山※)などは、古代集落がつけられていたのではないかと考えられます。

記事引用: 清水町のむかしばなし

※元ブドウ山とは、田尻柝谷町ふれあい会館前の山にありました。このブドウ山については、ホープタウン田尻の特集で紹介する予定です。

上記、昭和20年の空中写真と比べて
みてください。新しい道路や土地改良
された水田の様子など、ずいぶん変化
している事がよくわかります。



② 田尻栃谷堀割大工事 (たじいとちたにほりわりだいこうじ)

杉谷区片山区田尻栃谷区(清水杉谷町、片山町、田尻栃谷町)が寄り合っている穴虫(※①)、おかたん橋付近(※②)は、土地が低く洪水のときは、最後まで水が引かなかったので、百姓たちは何とかしてこの排水を、朝宮・栃谷(朝宮町・田尻栃谷町)のせまい谷から日野川へ落すことは出来ないものかと、以前から考えられていました。千メートル以上の堀割(ほりわり)工事には、巨額の経費がかかるので、中々着工できませんでした。

この新堀割の場合、今までの排水河川である、新保水路(※③:今の清水山町新保にある天津排水と三方排水が合流する十郷排水路)は、日野川との落差が小さいが、朝宮付近では落差が大きく、排水路として完全排水が出来ることが測量の結果わかっていました。

一方下天下(下天下町)と三留(三留町)との間で大雨の時沖田が満水して志津川筋「みせや堤(※④:今の六才橋付近)」が決壊して、日野川筋の水が下天下・猿和田(和田町)の沖田に流れこみ、水争いが絶えませんでした。

この事件の根本的解決策としては、朝宮・田尻栃谷へ新しい堀割りをつくって、排水するより仕方がないとの事で、実地見分の上、関係十七か村の間で、新堀割普請(ふしん)規定を結び、大工事を着工することになりました。

この堀割は大工事で、堀割組合同は、領主に巨額の借金を申込み嘆願書を出したり、村々への工事費分担が大きいので、儉約申合せ事項をきめるなどして、慶応三年(1867年:坂本竜馬が暗殺されるなど激動の年でした。)の春着工し、十二月末完成の予定でした。

さしもの大事も付近の百姓人夫を総動員して、着々と完成に近づきました。ところが、思いがけなく、古屋(※⑤)の切り通しの一番深い所が、何回も崩れおち、工事が長引き、十二月完成の予定を、役所へ検分日延べの願いを出し、人夫の増員などで堀割工事の完成は翌年慶応四年(1868年)春に延期されることとなりました。

ところが、この年九月八日明治と改元され、徳川幕府二百五十余年の幕藩体制はおわり、明治新政府が誕生しました。

この政変の真只中で、大工事堀割が完成し、排水路に水を落すことが出来ました。しかしどのような経過、いきさつ不明ですが、突然明治元年春、「埋めこみ仰せつけられ候に付」と文書にかかれていますとおり、埋めてしまう事になりました。その理由については、土地の古老も知らず、水が流れたことは親から聞いているとの事であります。

埋めこみの理由は、「堀割不用に相成り見詰も御座なく候」と、如何にも残念至極な文章でつぶられています。

ところが埋めるにも、多数の人夫と金がかかり、明治二年に工事が始まり三年春には又多額の借金をした記録が残っています。

近郷近在の百姓たちの多年の念願であった堀割工事が、巨額の費用と農民の汗と労働の協力によって完成したものの政変のまきぞえか、異議申立ての方法もなく、「まぼろし」の堀割として記録にとどめられています。なおこの埋めもどし水路の田んぼの作柄(さくがら)が、今日でも違うとのことです。

記事引用:
清水町の
むかしばなし



竹生町

竹生町の猿ヶ堂に行ってみよう

竹生町の猿ヶ堂山には、庚申塔(こうしんとう)が建っています。庚申の申の字はサルと読む関係から、庚申がいつしか仏教と神道とが混同して、庚申を猿田彦神として祀るようになったといわれ、それで猿ヶ堂と呼ばれるのだと思われま

※記事引用:清水町史



猿ヶ堂の近くにある八大竜王の祠です。



ここです

竹生町の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。再生する端末によっては動画が再生できない場合があります。※通信速度などの都合で再生が不安定な場合は動画データをダウンロードしてお楽しみください。



獣道。ほんのちよっぴり探検です。



この礼拝場を右手に進みます。

ここが「猿ヶ堂」... ではないんです...



急な階段です。気をつけてください。

京福路線バスの下り線の停留所、「竹生」の脇に、「霊山 猿ヶ堂」と彫られた石碑あります。その石碑の横に、「猿ヶ堂」に向う長い階段があります。



「霊山 猿ヶ堂」の碑



「竹生」のバス停留所のすぐ近く

さあ、上ってみよう

竹生町のおいたち

竹生(竹生町)は近くの片粕(片粕町)とともに、大昔から人が住みついた所です。昔の人は長尾山(※①)や西裏(※②)、堂ヶ谷(※③)などの山の中腹に住んでいました。特に西側の西裏の所から土器の破片が水田の中から発見されています。

竹生の地名については、昔若狭国丹生の浦(現美浜町)から、神様が「鮎(たこ:海の生き物の「たこ」です)」にのって当地へお下がりになったので、「タコウ(※)」と呼ぶようになったと言ひ、昔は鮎を食べなかったという伝説があります。

また、竹が生い茂っていたので、「竹生」の地名が生まれたともいわれ、タケフと呼ぶのを「タコウ」と訛ったとも言われています。

※現在は、「タコオ」と読まれています。

記事引用: 清水町のむかしばなし



地形図の出展: 国土地理院ウェブサイト

「猿ヶ堂」にまつわるむかしばなし

猿ヶ堂と八大竜王さま

竹生（竹生町）の南の方に、猿ヶ堂という山があって、むかしこの山の上に美しい水が湧いていたそうじゃ。

「こんな高い山の上に、うつくさい水が湧くんって、不思議なこっちゃのう」ということで、小さいお堂をたてて、水の神様の八大竜王をお祭りしたそうじゃ。

ほいて、この山には、猿が何匹もいて水を飲みに来るんで「猿ヶ堂」って言うようになったんや。

ところが、いつの頃かわからんのやが、八大竜王さんが盗まれてしもうたんやって。ほいたら、うつくさい湧き水も出やんで、山も荒れほうだいになってもたんや。

ほれから何年かたって、ちょうと今から（※このむかしばなしが編集されたのは昭和61年です。）十年ほど前のことじゃが、竹生のある人に夢のお告げがあってなあ……。

「猿が堂へ、早う八大竜王を祭りなさい。」という、水の神様のご命令があったそうじゃ。

その人はびっくりしなして、村のもんに相談かけたんや。ほいたら、

「そりゃ、区長さんに世話してもらて、こっしょまいかのお。」

ということにきまって、さっそく石屋さんに頼んで、神様を彫ってもらて、立派なお堂にお祭りしたんやって。

ほいて、石段やお手洗いも、ぎょうさん寄付が集まったんで、いいもんにできたんやってのう。ほれからは、水をつかう商売のもんに、め

っぽうご利益があるちゅう話がひろがって、料理屋さんやすし屋さんが、遠いところからわざわざ、月参りに来なはるんやって話じゃ。

八大竜王さんは、玉子がお好きやそうで、みんなが玉子をもって参るんやって。ほいて、不思議なことに、あくる日には殻ばっかして、中身がのっているんやって。

「竜王さんがお食べになるちゅう話じゃが、がてんがいかなのう……。」

ほれから、また夢のお告げがあつてのう。

「山の下の向出（むかいで）屋敷のザクロの木の下を掘って見よ。」

ちゅうお告げで、さっそく木の下を掘って見たんじゃが、またまた不思議なことに、うつくさい水がトクッ、トクッと湧き出たんじゃ。

ほれで、向出さんでは玉石を積んで、お水汲み場をつくったんや。このお水は、猿が堂のおこぼれ水で、きつとご利益があるちゅうんで、遠い所からわざわざお水もらいに来るそうじゃ。

ほれからまた、猿ヶ堂は「鎌どめ山（かまどめやま）」って言うて、八大竜王さんは鉄の刃物がおきらいで、鎌（かま）や鉈（なた）・鋸（のこぎり）をつかうと、たたりがあるそうで、そう木が伸びほうだいになっているんやって。

ほいて、不思議なことに、そう木が蛇のようにクネクネとねじれ曲がってるそうじゃ。

この猿ヶ堂の山にはもう一つ、庚申堂（こうしんどう）ちゅうお堂に神様が祭つてあるんや。この神様は、青面金剛（しょうめんこうごう）さんちゅうて、青いお顔のおとろしい荒神様やつて話じゃ。

ほいてなあ、この神様は、人の悪口を言うと、その人の寿命をちぢめてしまふんやつて。ほれで六十日目ごとに回つてくる庚申の日にお祭りをして、神様のご気げんをとらなあかんのやつて。

この庚申まつりには、村のもんが当番の家を集つて、床の間に青面金剛さんの掛け物をかざつて、人の悪口を言わんよう、人のいいことを話つて夜あかしするんや。

今では、この庚申まつりもすたつてしもて、人の悪口を言うもんがふえたんや。

※ 昭和61年8月、旧清水町が発行した「清水町のむかしばなし」の中に収録されている、「民話」をとりまとめました。

※ 概ね原本のとおりのため、難解な方言もあるかもしれません。



清水町

清水町といえば…

清水町 の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。



その① 城山



清水町の城山(じょやま)は、かたちのいい美しい山で、富士山によく似ているので、清水尻の小富士と呼ばれていました。また山がとがっていて鎌(やり)の先に似ているので鎌嚙(やりかみ)山ともいわれていました。この山に朝倉氏の家臣、村野源五郎影光(かげみつ)が城を築いたので、その城を「ヤリカミ城」と呼びました。城が築かれてからは、清水の城山というようになりました。

※その①とその②の記事引用:清水町のむかしばなし



その② 鼓岩

新世代新第3期中新世中期(おおよそ1,500万年ほど前。ヒト科が現れた時代でもあります。)の岩石で、湖の底で礫が堆積した上に安山岩質の土砂が積って固まった累積層です。市指定文化財でもあります。

昔、殿様が休憩した言い伝えがあり、涼み石とも呼ばれています。



その③ 里川

清水町には5つの清水(しょうず)があり、最も大きな清水は「大清水」と呼ばれ昔から生活用水として利用されてきました。周りは石積みで囲まれていて、今も昔ながらの風景を保っており、集落の長い歴史を感じる事ができます。

平成29年1月、福井市の里川、「清水湧水群—大清水(しょうず)」として認定されました。



そのほか 大字名

「清水町」という大字名は、これまでに数回変更されています。地元以外の方には少々ややこしい…。

- ・明治22年4月～ 丹生郡三方村 「清水尻」
- ・昭和30年7月28日～ 丹生郡清水町 「清水」
- ・平成18年2月 1日～ 福井市 「清水町」

清水町のおいたち

志津川が日野川に合流する要所で、村の後には、城山(じょやま)という

高い山がそびえています。この山は水山と呼ばれ、山の麓に「清水」が湧き出しています。そして志津川の川尻にあたるので、「清水尻」と呼ばれるようになりました。

古代人が早くから住みついた所で、近くの北堀(福井市安居地区)には貝塚があり(※【1】)、古代人の食べたシジミ貝や獣の骨が発見されています。

清水(清水町)の足高山(あしだかやま)(※【2】)には、十数基の円墳や前方後円墳がつくられてあり、古墳時代には豪族が住んでいたことを物語っています。

記事引用: 清水町のむかしばなし



地形図の出展: 国土地理院ウェブサイト

ヤリカミ城主ものがたり

清水の城山（じょやま）は、かたちのいい美しい山で、富士山によく似ているので、清水尻の小富士と、呼ばれていたといひます。また山がとがっていて鑿（やり）の先にならているので鑿嚙（やりかみ）山ともいわれていました。この山に朝倉氏の家臣、村野源五郎景光（かげみつ）が城を築いたので、その城を「ヤリカミ城」と呼んだ。城が築かれてからは、清水の城山というようになりまし。

この城山は、高さが百二十メートルもある急な山で、たいへん攻めにくく、南の山裾には城主村野氏の館があり、武将の守り神「八幡神社」を祭ってありました。

この神社のわきから、美しい清水が年中湧き出ているので「清水尻」という地名が生まれたといわれています。

天正三年（1575年）八月、織田信長の軍が一向一揆征伐のため、越前へ攻め入り、そのころ一揆勢に味方していた景光の孫、村野景政の清水尻館へも、信長勢が攻めかかってきました。

織田方では、日野川べりの片粕町のアサ畑のアサをくくって、旗や松明（たいまつ）を立て大軍が攻めてきたように見せかけたりし、また八幡神社の前では、はげしい戦いがくりひろげられました。キビ畑の中にかくれていた景政の兵士は、キビといっしょに、薙ぎ殺されたと伝えられています。それからはこの辺では、キビを作らないようになったとのこと。

この戦いの際、城主景政の「奥方」は、家財道具を持って和田町の田中孫四郎家へのがれ、かくまってもらいました。この孫四郎家を覚信（かくしん）と呼んでいますが、これは奥方をかくしたので、「かくし」がなまってかくしんという屋号がついたといわれています。

城主景政は命からがら、日野川を渡り、（対岸の）西下野町へ逃げのびました。そして下野のある百姓の家の、モミガラを入れた大きなむしろの「ツト」の中にかくれていました。

ところが、織田方にそのことを、密告したものがいて、ツトの中にかくれていた景政は、外からの一突きで刺し殺されました。その時、景政は、

「密告するとは、卑きょうじゃー。末代たたってやるぞー。」と、叫んで死んだといひます。

それから、この家では正月一日に雑煮をにると、そのたたりで餅がドロドロにとけて、白い蛇になって自在鉤（じざいかぎ）の縄をつとんで、つし（二階の物置）へ上ると伝えられ、正月二日から雑煮を食べるようにしているとのこと。

なお、ヤリカミ城主村野景政の子景宗は、織田方に降参して、清水尻の館に住んでいました。その後、天正四年春には、一向一揆方に焼かれてしまった竹生の薬師宮（現在の丹生神社）を建てなおしたという記録が残っています。

記事の引用：清水町のむかしばなし

大正天皇御即位記念碑

大正4年に大正天皇の御即位式が京都御所で行われました。この御即位式（御大典とよびます。）を記念して、清水町では、城山の山頂に記念碑を建立しました。水田高約100メートルという急な高い山頂に高さ1メートル70センチという大きな自然石と笏谷石（しゃくだにいし）の台石を、山頂まで引き上げるのは並大抵ではありませんでした。滑車と太縄で何日も村中総出で山頂へ上げたといひられています。当時の村民の皇室崇拜の篤かったことが偲べられます。

碑には「御即位記念碑」と筆太に彫られ、題字は時の丹生郡長 正七位勲6等 鷲田又兵衛でありました。なお、昭和23年福井大地震の時倒壊し放置されていましたが、昭和53年昭和会員の手によって再建整備されました。

記事の引用：清水町史



山頂にある大正天皇御即位記念碑

和田町

和田町の春日神社



燈明が灯された大晦日深夜の春日神社

和田町の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。



春日神社

和田町の住民は、大晦日の夜、除夜の鐘が聞こえはじめる時間になると、蠟燭(ろうそく)を持参し、燈明(※とうみょう)を灯します。神社係や村役の方は、元旦朝7時の宮田宮司による祝詞(のりと)をあげるまで夜通しで燈明をお守りします。多くのご高齢の方は、祝詞の時間にあわせて参拝しますが、元気な子ども達はこの蠟燭灯しをするため、この日だけは夜更かしが許されます。

この風習は他の村でもあるのかどうかは定かではありません。少なくとも清水東地区内では行われていないようです。

※ 燈明(とうみょう)とは神仏に供える明かりの事です。灯明とも書きます。

※ 和田町出身の方より、和田町内でのみ通用するこんな格言を聞きました。

「賽銭(さいせん)忘れても蠟燭(ろうそく)忘れるな。」

春日神社の狛犬の寄進者 杉崎郡作

春日神社の狛犬の台座には、寄進者が「杉崎郡作」と彫られています。調べてみますと案外有名人で驚きです。Webで「すぎさきぐんさく」で検索してみると、貧しい中、北海道函館で一代を築き、社会福祉などの分野で功績を挙げた方と紹介されています。

さらに、地元の古老の方などから聞いたところ、郡作さんの父親(谷口岩松さん)は和田町出身で、風巻町(旧天津村→旧清水町。今は福井市。)の杉崎家に婿養子に入り、その後、杉崎一家は和田町に戻ったとのことです。郡作さんは、明治30年3月、三方村三留尋常高等小学校補習科を卒業(満12才)後、北海道開拓移民として両親と3人の弟とともに北海道函館に移住するまで和田町で過ごしました。



狛犬の台座
(字が見づらいかも)

狛犬が寄進された大正11年には、北海道で初めて保導委員制度(現在の民生委員)が設けられ、郡作さんはその委員に任命されています。それを記念して狛犬を寄進されたのかもしれませんが。



狛犬
(向って右側のもの)

石切場

和田町の東方北端に大きな石切場跡があります。奥行きは深くてわかりません。和田石は、足羽山の笏谷石(しゃくだにいし)と同じ鉱脈の末端にあたり、石質はやや柔らかく霜に弱い欠点がありましたが色がよく値段が安かったため近村に売られていました。相当古くから採石されていたようですが、明治時代には笏谷石におされて採石されなくなり、採石穴に水が溜り荒れ放題になってしまいました。 記事引用: 清水町史



石切場跡

※危ないので立ち入らないでくださいね。

和田町の私たち

和田町の村前一带は、志津川が屈曲していて、昔から水害になやまされていました。大昔はこの辺は沼地で大木が茂っていたので、水田の下2メートル位の所に、周り4・5尺の大木が折れ重なって、泥炭化(でいたんか)しかかっているとのことです。

そのため、大昔は小谷山(※①)の高台や、本堂町地籍の堂が谷(※②)などに住んでいたのではないかと思います。宝暦11年、今から257年前(2018年で計算)の村明細帳によると、堂が谷の田地315石を出作しています。これは30町歩余りの水田を、和田の者が耕作していたことになり、この堂が谷に和田の者が住んでいたのではないのでしょうか。

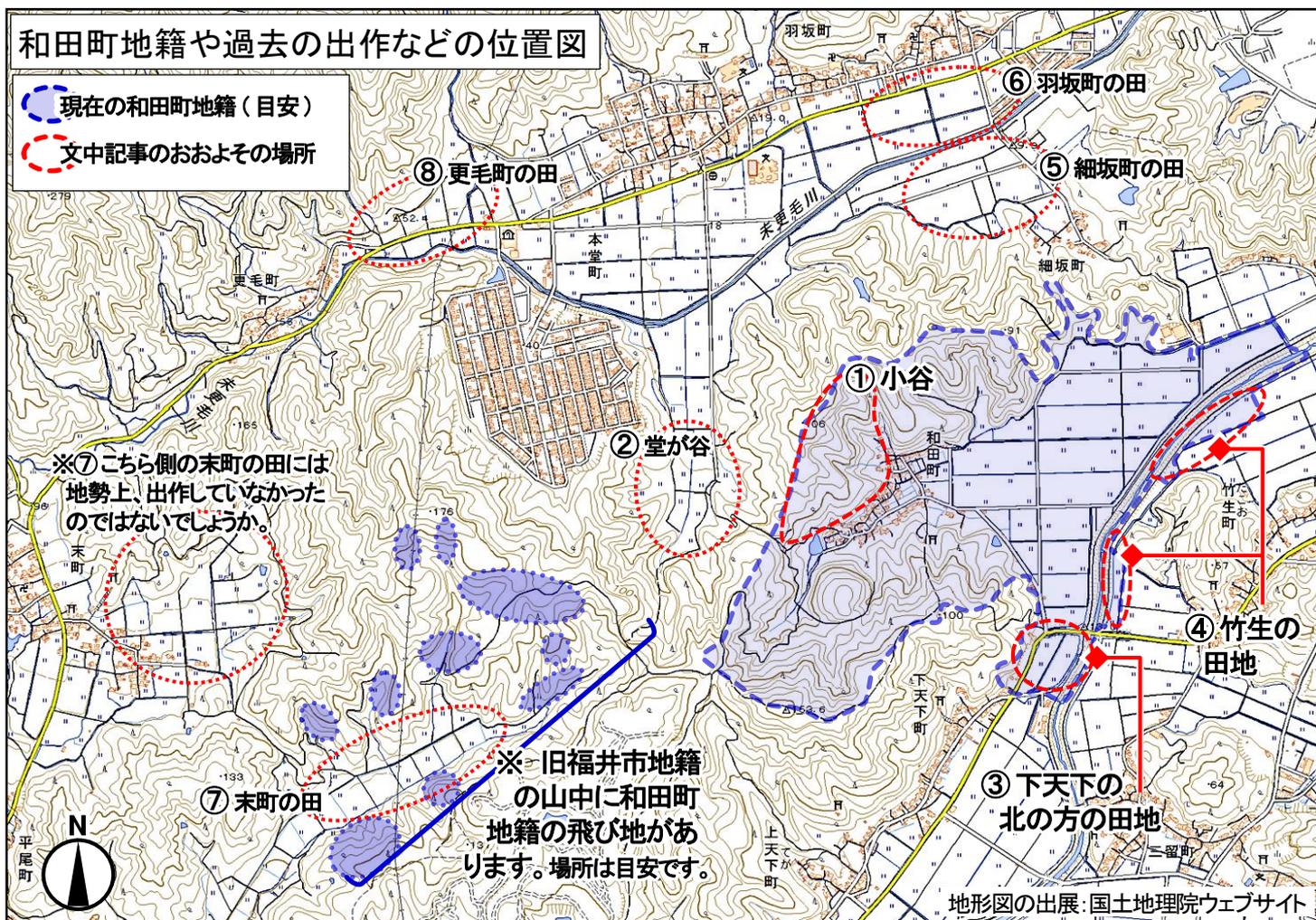
この出村には、神社やお寺があって栄えていたが、天正年間織田信長の時代、一向一揆のために焼き払われ、村人たちは親村の和田へ帰ったので、戸数も91軒にふえました。

その後、この堂が谷の山だけ残して田地は売り払い、下天下町の北の方の田地(※③)と、竹生町の志津川べりの田地(※④)10町歩余りを買取ったとの言い伝えがあります。

なお、江戸時代には細坂町(※⑤)で40石、羽坂町(※⑥)で50石、末町(※⑦)で50石、更毛町(※⑧)で55石も出作していました。堂が谷と合わせて、510石も出作していたことは、村前の田んぼが毎年洪水でほとんど水腐れになって、米がとれなかったことを物語っています。

和田という地名は、アイヌ語で「葦(あし)の生えている所」という語源であるともいわれ、県内の和田という所は湿地帯で奥まった所が多いようです。また、村ばなの下天下境に「さる屋」という地名があり、猿がたくさんすんでいたので「猿和田」としていました。昭和30年町村合併によって清水町(旧清水町)が誕生した時「猿」の字をとって「和田」と改められました。

記事引用：清水町のむかしばなし



里川(大谷川)

和田町の大谷川は、西側上流にある大谷池というため池から町内を流れています。魚が泳ぎ、川沿いには昔ながらの石積みや笏谷石の石垣が残っています。昔ながらの風景を今も残しています。

平成29年1月、福井市の里川「大谷川」として認定されました。



ホープタウン田尻

ぶどう山だった ホープタウン田尻※

ホープタウン田尻の紹介ショート動画はこちらから。

※動画形式はMP4です。
再生する端末によっては
動画が再生できない場合
があります。
※通信速度などの都合で
再生が不安定な場合は
動画データをダウンロード
してお楽しみください。

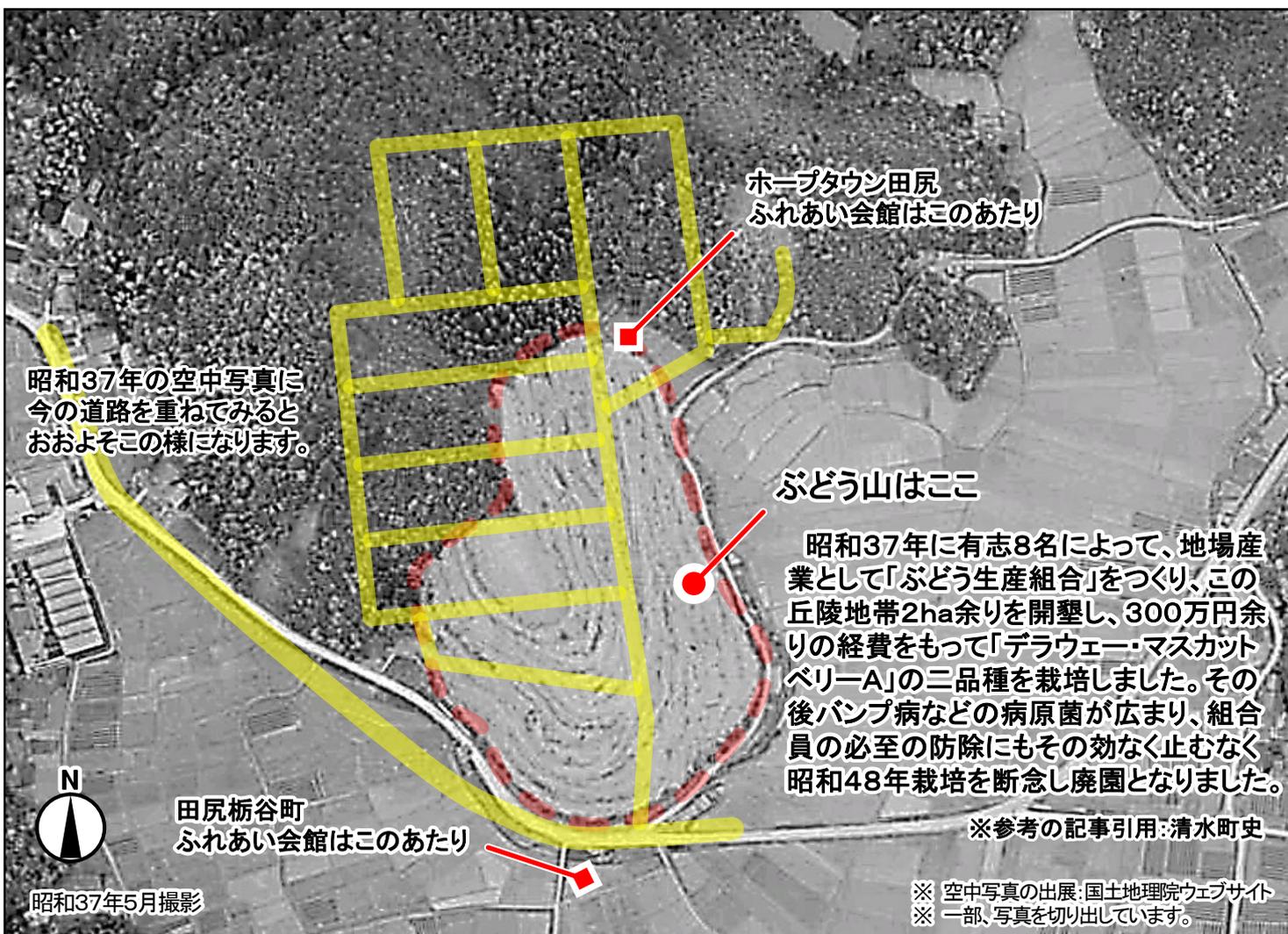


※「ホープタウン田尻」とは自治会名であり
大字としては「田尻栃谷町」です。

平成30年5月撮影

田尻栃谷ふれあい会館付近より北に向けて小型無人機で撮影しています。

田尻栃谷町
ふれあい会館はこっち



昭和37年の空中写真に
今の道路を重ねてみると
おおよそこのようになります。

ホープタウン田尻
ふれあい会館はこのあたり

ぶどう山はここ

昭和37年に有志8名によって、地場産業として「ぶどう生産組合」をつくり、この丘陵地帯2ha余りを開墾し、300万円余りの経費をもって「デラウェア・マスカットベリーA」の二品種を栽培しました。その後バンプ病などの病原菌が広まり、組合員の必至の防除にもその効なく止むなく昭和48年栽培を断念し廃園となりました。

※参考の記事引用:清水町史

田尻栃谷町
ふれあい会館はこのあたり

昭和37年5月撮影

※ 空中写真の出展:国土地理院ウェブサイト
※ 一部、写真を切り出しています。

ホープタウン田尻のおいたち (世帯数や人口、空中写真で紹介します。)

平成	4年(1992)	9月～	宅地開発が開始		
"	8年(1996)	11月～	分譲開始		
"	9年(1997)	4月1日	6世帯	23人	
"	10年(1998)	4月1日	39世帯	131人	
"	11年(1999)	1月	自治会発足		
"	11年	4月1日	48世帯	149人	
"	12年(2000)	4月1日	57世帯	182人	
"	12年	10月1日	58世帯	191人	
"	13年(2001)	4月1日	66世帯	216人	
"	17年(2005)	10月1日	78世帯	268人	
"	27年(2015)	10月1日	98世帯	346人	
"	31年(2019)	2月1日	102世帯	362人	

※世帯数などの出典：国勢調査や住民基本台帳など



※ 空中写真の出展：国土地理院ウェブサイト
 ※ 一部、写真を切り出しています。
 ※ 全ての空中写真の上方向が北です。

清水東地区 各地区のアーカイブ

2019年7月

清水東地区自治会連合会



A SPECIAL EDITION
by Teamふらひがし

